

とつと通信

2020年8月19日発行

209号

「とつと通信」は
略してとつと。
（もしも誤解を招く
恐れがある場合は
お名前を添えてください）

こんにちは！平川です。コロナの影響で家にいる時間が増え、映画をよく見るようになりました。

アマゾンプライムへ加入し、月に7、8本見えています。そこで先日見た映画の感動が冷めやらぬうちに、ご紹介しなくては。今月もはりきっていきましょう。

「ワンダー」君は太陽

（あらすじ）10歳のオギーはスタイウーズが大好きで、宇宙飛行士になるのを夢見る普通の男の子です。ただ普通の子とちよと違うのは、遺伝子の疾患（トリーチャー・コリンズ症候群）で人とは異なる顔で生まれてきました。外に出る時は、宇宙飛行士のヘルメットをかぶり、顔を隠しているオギー。これまで27回もの手術を受けたため、学校へは行けず、ずっと自宅学習を続けていました。しかし母のイザベル（ジュリア・ロバーツ）は、このままではいけないと、夫の反対を押し切り、学校へ行かせることを決意します。そして登校初日、「神様、息子を守って」と父、母、姉の



三人から見送られ、不安そうなおギーは、一人門をくぐります。しかし母の不安は当たります。生徒たちからは遠巻きにジロジロ見られ、誰からも話しかけられず、ドッチボールでは大勢から標的にされ、ランチも独りぼっちでした。しかしどんなにいじめられても、オギーは学校へ行きます。そんなある日、オギーに初めて、ジャックという友達ができました。次第に、お互い、かけがえのない存在となっていくのですが、ハロウィンの日、ある出来事が起きます…。



顔のせいだよ。なぜ僕は醜いの？と、すると母は言います。「人の顔には、印があるのよ。心は人の未来を示す地図で、顔は人の過去を示す地図なの。あなたは絶対に醜くないわ」と。つまりオギーの顔は何度も手術に耐えた勇気の証であり、未来は心が創るということ。母の深い愛情に感動すると同時に、相手を認めることの大切さに気付かされるシーンでした。27目は、オギーが独りぼっちでランチを食べている時、そのテーブルへ、ジャックというクラスメイトが一緒に食べようと来たシーンです。ランチを食べないオギーに、ジャックが聞きます。「なぜ、食べないんだい？」するとオギーは、「亀みたいな食べ方なんだ」と返します。おそらくオギーは手術のせいで、上手に物が噛めなくて食事をするのが恥ずかしい。だから人前でランチを食べないのでしょう。それを聞いたジャックは何と言ったと思いますか？もし私がジャックの立場だったら、「そんなの気にするなよ、一緒に食べようぜ」と言うのが、関の山でしょう。しかしジャックはこう言



ったのです。「まじかよ。僕もなんだ」と。そして手を使わずに、目の前のパンに噛みつき、むしゃむしゃと舌く食べ始めたのです。まるで亀のように。それを見たオギーはケラケラと笑います。オギーを安心させようと、自分を卑下し笑いを誘ったのです。こんな行動が、誰に対しても、自然に出来る人間になりました。と強く感じたシーンでした。さて実はこの映画を見るまでは、同情で涙を誘う映画かな。と思っていました。とんでもありません。まったく違っていました。というのも、オギーは、本当に明るくて、ユーモアがある、前向きな少年なのです。まるで太陽です。オギーの入学で、同級生たちは、どんどん変わっていきます。オギーは自分で運命を切り開いていきました。そして感動のラストへと。人と関わる上で、とても大切なことが描かれた名作です。ぜひお友達とご一緒にどうぞ。



発行／有限会社アサム
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002
・専門学校&スクールサーチ: <http://www.asamnet.jp/>
・ブログ: <https://itorinri.com/>